

万里集九

禅僧で歌人の万里集九（1428 年–1498 年？）は、現在の兵庫県にある有馬温泉と、現在の群馬県にある草津温泉と共に、下呂を日本で最高の温泉街の 1 つだと主張した最初の人物です。広く読まれた彼の著作は、室町時代（1336 年–1573 年）末期に人々を下呂温泉に呼び込みました。

江戸時代（1603 年–1868 年）初頭、儒教学者の林羅山が万里集九と同じ考えを発表し、下呂温泉をこの国の最高の温泉の 1 つだと宣言すると、町の知名度は津々浦々に浸透して行きました。羅山も集九も、阿多野川にかかる橋に記念の像が設置されています。集九の像は、彼のこの地域に対する貢献を称えるために、2015 年に毎年開催されている下呂温泉祭りでお披露目されました。